

第25回春一番伊達ハーフマラソン

北海道新聞

発行所
北海道新聞社

郵便番号 060-8711
札幌市中央区大通西3-6
電話 011(221)2111
©北海道新聞社2012

速報

インターネットで道新ニュース
www.hokkaido-np.co.jp

ご購入申し込みは
0120-464-104

掲載写真を個人観賞用に限り有料でお分けします

お申込み、お問い合わせは「道新写真サービス」
(電話011-210-5805) 受け付けは月
～金曜日(祝日を除く)の9時30～17時まで

健脚自慢 4千人突破



だて歴史の杜総合公園から一斉にスタートした約2500人のハーフマラソン参加者

【伊達】第25回春一番伊達ハーフマラソン(実行委、北海道新聞社主催)が15日、だて歴史の杜総合公園発着で開かれた。雪解けの早い伊達の気候を生かしたマチおこしイベントとして、市民有志が1987年に大会を創設して四半世紀。3、5、10キロと

ハーフマラソンを合わせた全参加申込者数は、初めて4千人を突破して4043人に達した。ハーフマラソンは一般男子B(40～49歳)の青森県八戸市の加藤聡選手(46)、同女子A(50歳未満)は旭川市の片山志保選手(34)が優勝した。

男子は加藤さん 女子は片山さんV



開会式では、岩手県大船渡市の桃木康雄選手(54)が「東日本大震災の被災地では復興が続いている。全国からの支援にお礼を述べたい。本大会では焦らず諦めずゴールを目指す」と元氣よく選手宣誓した。続いて、

「春一番」と銘打って、道内マラソンシーズンの幕開けを告げるこのハーフ大会の第1回出場者数は約1500人。2000年有珠山噴火によって1度だけ中止されたが、参加者数を着実に伸ばしてきた。昨年は3683人。今年の申込者数は360人増えている。

今回の参加選手待機所には、これまでのカルチャーセンターに加え、隣接して今月開館したばかりの市総合体育館も使われた。また、警備や給水など500人以上の市民ボランティアらが、節目の第25回大会を支えた。

ハーフマラソン一般男子Bを制し、先頭でゴールした加藤聡選手(中央)

を快走した。加藤選手の優勝タイムは1時間10分54秒、片山選手は1時間19分52秒だった。一方、小中学生が参加した3キロ、一般と高校女子の5キロ、一般と高校男子、車いすの10キロは午前11時、同じ駐車場から出発した。



マイペースで快走

うっすらと見え
た昭和新山を背
景に伊達市郊外
をゴールに向か
ってひた走る選
手たち

市内竹原町で折り返す3キロコースを駆け抜け、ゴールに戻って来た小中学生の選手



岩手県大船渡市から参加し、4千人以上の選手を代表して開会式で選手宣誓した桃木康雄選手



市総合体育館裏の沿道で選手のラストスパートを後押しした勇壮な伊達武者太鼓



多くの選手が紙コップの水を受け取ってのどを潤した伊達商工会議所前の給水所

